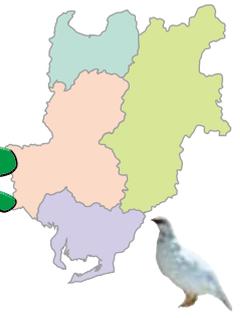




国民の森林・国有林

広報

# 中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



力を合わせて森林整備を行う木曾檜川小学校の児童（中信署育樹祭）

## 立派なヒノキに育て!! 育樹祭を開催

(P 3に関連記事)

主 な 項 目	○ 国有林モニター会議（現地見学）の開催 .....	P 2
	○ 各地からのたより .....	P 3～6
	○ シリーズ森林官からの便り .....	P 6～7
	○ 風景紀行 .....	P 8

平成二十四年度

## 国有林モニタリング会議 (現地見学)の開催

「企画調整室」九月二十六日、和田山国有林外（東信森林管理署管内）において、国有林モニタリング会議（現地見学）を開催しました。

午前の現地見学は、和田山国有林（一二八林班）の囲いワナによるニホンジカ捕獲調査事業の概要、及び調査結果について指導普及課生熊系管理指導官から説明を受けました。

午後の現地見学は、美ヶ原高原にてグリーンサポートスタッフの活動状況（主な違反、注意の内容等）について和田森林事務所森林官やグリーンサポートスタッフから説明を受けました。当日は天気が良く、八ヶ岳、御嶽山、乗鞍岳、北アルプス等の眺望が素晴らしく国有林モニタリングの皆様も感激されていたようです。

その後、下諏訪町の八島ビジターセンターにて下諏訪観光協会の宣伝部会長であり、センターの自然解説員でもある田口氏から八島ヶ原高層湿原における民・国連携によるシカ被害対策について講演を受けました。

今回の現地見学会では、国有林モニタリングの皆様から「シカ対策が如何に大変なのか分かりました」「シカ捕獲の記事が新聞に載ることを期待します」「美ヶ

原高原の美しさの一端を担っている皆さんの活動は大変良いことだと思えます」「八島ヶ原高層湿原を柵で囲まなくてはならない現実、シカが増えていることに驚いた」等といった感想が出されました。

今回の国有林モニタリング会議（現地見学）でいただいた貴重なご意見を、これからの国有林野の管理・経営に活かして参りたいと考えます。



囲いワナ設置箇所での見学の様子

## 「中部森林学会」で 国有林の取組を報告

「指導普及課」十月十三日、中部森林学会の大会が信州大学農学部において開催され、中部森林管理局から木曾森林管理

署と森林技術センターが研究発表会に参加しました。

中部森林学会は、日本森林学会（旧日本林学会）の一般社団法人化を契機に、同学会の中中部支部が発展的に改組され、中部地域（石川、愛知、岐阜、静岡、富山、長野、福井、三重の各県）の研究活動拠点を置く会員等によって組織される新たな学会として昨年四月に設立されたところです。森林・林業に関する学術研究活動を通じて、林業及び森林科学の発展、環境保全技術の向上に寄与する新たな知見を中部地域から発信することを目的に、毎年一回、総会と研究発表会等からなる大会を開催することとしているものです。

木曾森林管理署からは「モデル林における『低コスト・高効率作業システム』—5か年の変遷—」と題して発表しました。架線集材に依存してきた地域で生産性の向上、低コスト化を図るため、同地域では一般的な三十度以上の急傾斜地を多く有する間伐期に達したカラマツ人工林団地をモデル林として設定し、路網、列状間伐、高性能林業機械を組み合わせた作業システムの検討や実証を通じて、急傾斜地での低コスト作業システムの確立と、機械の導入、作業道作設技術の向上が図られるなどにより、生産性が向上した5年間の取組の内容としたものです。

また、森林技術センターは、共同研究



木曾署の渡邊企画官と市川流域管理調整官

者である岐阜大学の安藤正規助教とともに「七宗国有林若齢造林地におけるニホンジカ被害—食害の発生状況と不嗜好植物の混植による防除の試み（予報）—」を発表しました。これは、同センターの試験地においてシカの食害を免れる樹高を定量化した結果と、ヒノキ造林木とシカが採食しないとされるアセビ、シキミ、サワラ等を混植することにより、採食の抑制効果の検証を行う混植試験地における食害発生状況及び植栽時の条件設定や評価手法の検討等の中間報告を行ったものです。

今回の研究発表会には、各県の研究機関や中部地域の大学等から一〇三の発表が行われたところですが、両発表とも熱



森林技術センターの千村業務係長

心な質問と的確な応答がなされたことも含め、国有林における試験研究や取り組みの一端を紹介できる良い機会となりました。

また、大学・研究機関の研究や研究員等のプレゼンテーション技術に接することができたとともに、学生・研究者との交流の機会にもなりました。

なお、次年度は岐阜県において開催される予定となっておりますので、来年も時宜を得た研究報告ができることを期待しているところです。

### 各地からのたより

#### 育樹祭を開催

##### (森林整備と森林教室)

〔中信署〕十月十二日、塩尻市の奈良井国有林において、中信森林管理署の育樹祭を開催しました。当日は、木曾檜川小学校四・五年生の児童四十二名と教職員五名、来賓・招待者・地元関係者等、総勢約百三十名が参加し、ヒノキ等の除伐作業を実施しました。

この育樹祭は、育樹作業の体験を通じて、森林を育てることの重要性に関心を持っていただくことを目的としており、特に木曾檜川小学校四・五年生には育樹祭の事前学習として、森林のはたらきや森林との関わりについて、当署の奈良井森林官が先生役となり学習を行いました。また、これらが森林環境教育のフィールドとして、地域と連携した取組となることも期待しています。

当日は、澄み渡る青空のもと、児童により事前学習で学んだことを踏まえた緑の宣言が行われ、開式となりました。

来賓や一般招待者は会場から十分程度離れたヒノキ植栽地での除伐作業となりましたが、来賓の塩尻市長や小谷村長も参加し、除伐作業に汗を流していただきました。

木曾檜川小学校の児童たちは、すでに森林整備を行う意義を学んでいるため、



みんなで力を合わせて作業

意欲的に作業を行い、普段は体験することのできないノコギリでの除伐作業をみんなで力を合わせて行いました。

午後からは児童を対象に森林教室を行い、当地域に存在する貴重な環境資源である「ジャンボカラマツ(※)」までの道程で、樹木の観察や森林の役割などを学習しました。「ジャンボカラマツ」に出会った児童たちはその迫力に圧倒されながらも、自然の中での体験を満喫しているようでした。

参加した児童たちからは「実際に除伐するのは大変だけど木を伐るのは楽しい。」「森林の中を歩くと気持ちがいい。」「などの感想がありました。森林を育てる



ジャンボカラマツの前で

ことの重要性をこれからも発信し続けていきたいと思えます。

※ジャンボカラマツ：林齢二百五十年程度と推定されている天然カラマツ。平成十二年には、林野庁の巨樹・巨木一〇〇選に指定されている。



ジャンボカラマツ

### 木質バイオマスエネルギーの 利用拡大に向けて

【南信署】十月二十一日(日)、長野県富士見町の西岳国有林に所在する「多摩市の森」(遊々の森)で、東京都多摩市の市民ボランティア団体「フレンドツリーサポーターズ」、多摩市・富士見町、上伊那森林組合及び当署職員約四十名が参加して、間伐材の搬出作業を実施しました。



開会式の様子

当作業は、木質バイオマスエネルギーの利用拡大に向けた森林ボランティア活動として平成十七年度から始まったもので、今回で八年目となります。

今回搬出した間伐材は、今年の五月から十月までの間に、多摩市の小学六年生約千二百名が間伐体験により伐倒したも



間伐材を搬出する様子

ので、搬出しきれずに残っていた木材の有効活用を図る目的で実施したものです。

参加者は、一・六メートルに玉切りのカラマツ材等を林内から林道端までの約百メートルを肩に担いだり、試験的に設置した木馬道を使いロープで引き出すなど、人力で搬出しました。

搬出された間伐材約二十立方メートルの一部は、その場でトラックに積み込み、上伊那森林組合のペレット工場まで運び、ペレットストーブの燃料に加工されます。

ボランティア団体「フレンドツリーサポーターズ」は、年五回この地を訪れ、間伐作業等の森林整備を実施しています。当日が最終日ということで、秋晴れの晴天の中、開会式が始まる前から作業に取り組んでいたいただきました。

### 検知講習会の開催

当作業を通じて、上下流の連携を深めるとともに、自然エネルギーが見直される中、今後の利用拡大と木質バイオマスエネルギーの普及を通じて、木づかい運動が国民全体に広がることを期待しています。

【木曽署木材販売室】十月三十日(火)

に木曽森林管理署及び新上松土場を会場として、検知講習会を開催しました。講習会には現在検知業務を請負実施している、みどり産業(株)、長野県森林組合連合会南信木材センター、木曽官材市売協同組合のほか、木曽森林管理署、南木曽支署の森林官等の約七十名が参加し実施しました。



検知の基礎について学ぶ

また、実施に当たっては、木材の販売等を実施している長野県森林組合連合会南信木材センターと木曽官材市売協同組合から、昨今の木材状況や欠点材を製材したサンプル等を活用した欠点の見分け方などの説明をいただくなど、顧客のニーズに応じた検知・巻立方法の確認等が実施でき有意義な講習会となりました。



試供木で検知の統一化を図る

講習会は午前と午後の部に分けて開催し、午前の部は請負事業者の中で検知業務の未経験者と経験の浅い者及び森林官等を中心に、検知・巻立業務の基礎知識について講習を実施しました。  
午後の部では、新上松土場において試供木(二十一本)をグループ毎に検知し、一本毎に実施内容の確認や質疑・応答を行い、検知の統一を図りました。

## 「木の文化」の継承に向けて この間の取り組み成果等を確認

〔南木曾支署〕 十月二十四日、賤母国有林において協定期間が満了となった「檜皮の森」森林整備協定を公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会（以下社寺保存会）と新たに締結しました。

〔檜皮の森〕は、善光寺本堂屋根をはじめとした歴史的建造物の屋根に使われる檜皮（ヒノキ樹皮）の安定的な供給及び採取する原皮師の育成・研修フィールドとして、平成十四年十一月に設定し、原皮師の育成研修事業をはじめ、歩道整備や採取木周辺のつるきり等の森林整備や、当支署と社寺保存会が協働で南木曾



協定書を掲げる保存会の田中会長と相馬南木曾支署長

小学校や木曾青峰高校、長野県林業大学の児童や生徒に対し檜皮採取見学等の実施をしてきました。

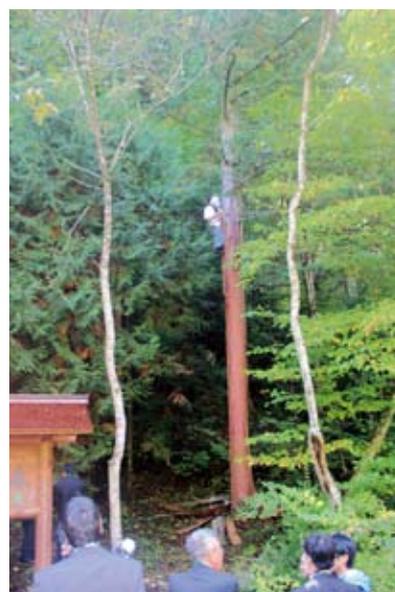
また、この十年間の成果についても平成二十三年度中部森林技術交流発表会に参加し、発表したところです。

当日は、社寺保存会の田中会長と南木曾支署相馬支署長

が協定書に署名し、調印終了後、社寺保存会の田中会長から「この十年間で原皮師が増えてきた」「賤母国有林は面積が広大なため、黒皮となったことにより今は文化財修復への貢献が以上に期待できる」とこの間の取り組みの成果と今後に向けての意義が強調され、相馬支署長からは「協働での森林環境教育をはじめとした取り組みを通じ地域への皆さんにPRしていきたい」と決意を述べ、原皮師による檜皮採取の実演が行われた後、式典を終了しました。

当日は、地元マスコミ等も取材に訪れ、この間の取り組み成果等についてPRすることができました。

今後、今まで協働で取り組んできたことを継続していきながら、森林環境教育を始め、木の文化の継承及び後世に伝えていく取り組みを当支署としても積極的に支援をしていくこととしています。



檜皮採取の実演

## 「白山白川自然休養林」 オフィシャルサポーターの 協定調印式を実施

〔飛騨署〕 林野庁の「レクリエーションの森」オフィシャルサポーター制度は、企業等から資金や労務の提供を通じ、地域の協議会やNPOの方々と一緒にレクリエーションの森の整備や管理の活動に参加していただく制度です。

この度、世界遺産で名高い白川郷有する大野郡白川村の霊峰白山の麓に位置する「白山白川自然休養林」の整備等に関し、社団法人名古屋林業土木協会がオフィシャルサポーターとして白山白川自然休養林保護管理協議会との間で協定を締結することになり、十月十日、白川村役場において調印式が執り行われました。

同協会は、これまでも当署管内の複数のレクリエーションの森において歩道の草刈り等のボランティア活動を積極的に

行ってきましたが、今年が白山国立公園指定五十周年に当たるのを契機として、保護管理協議会と一緒に「白山白川自然休養林の整備活動に取り組み」ことを決意され、今回の協定締結に至ったものです。



協定書を手にする梅田協会長（左）と成原協議会長（右）、中央は清水飛騨署長

冒頭、社団法人名古屋林業土木協会の梅田豊会長から「こうした活動が足掛かりとなり、その活動の裾野が広がっていくことに期待したい。」と挨拶があり、岐阜県におけるオフィシャルサポーターの先駆者として、白山白川自然休養林の整備等を通じて地域の活性化に積極的に貢献していくことへの意欲を渗ませました。

なお、本協定締結は、中部森林管理局管内においては二例目、岐阜県内では初

めてとなるものです。

今後、社団法人名古屋林業土木協会からも労務等の提供を受けて遊歩道の整備等が進められることとなり、白山を訪れる登山客や観光客にとっても一層親しみやすい休養林となり、多くの人達に安らぎとくつろぎを提供してくれる場所になることが期待されます。

調印式を終えた翌十一日には、早速、社団法人名古屋林業土木協会の会員らにより協定地周辺の外来植物除去作業が行われました。

今後もこうした取り組みに期待すると共に、当署としても協議会や団体等と協働する中で、地域の活性化に寄与したいと考えています。



「南信森林管理署下諏訪森林事務所」

小金沢 保重 森林官

当森林事務所は、長野県中央部諏訪湖の北、下諏訪町に所在し、東侯国有林一、六六八鈔と官行造林三一九鈔を管理しています。

東侯国有林は、江戸時代には高島藩の藩有林でしたが、明治維新の際に御料林となり、昭和二十二年の林政統一により国有林となりました。

当国有林における林分の特徴は、人工林が全体の七三％で、全国平均の四〇％

に比べ、高い人工林率になっています。内訳はカラマツ五九％・ヒノキ三八％となっています。林齢では五〇年生以上の林分と五〇年生以下の林分の割合がほぼ同じとなっています。

当国有林の特色は以下のとおりです。

一 諏訪大社に伝わる御柱祭で使用する御柱用材(樅)を下社に供給しています。平成十四年には約三三八三鈔を「御柱の森」として設定し、当署と地元協定書を結び、地域伝統文化を支えています。現在、約千本の御柱用材候補木が選定されています。協議会での主な活動は樅の植樹・鹿害から樅を守るバークガードの設置などです。



諏訪大社下社御柱祭の伐採式

二 当国有林の上部は八ヶ岳中信高原国立公園に指定され、その中に本州最南端の高層湿原である八島ヶ原湿原があ

り、一部が管内に含まれます。その成り立ちは約一万年前とされ、ミズゴケが堆積してできた泥炭層は約八割あり、現在も一年間に一ミリのペースで堆積しています。

近くをビーンズラインが通過しており、平成二十三年には約七十三万人が訪れています。



八島ヶ原湿原 (高層湿原)

三 当国有林近辺から産出される黒曜石は、旧石器時代より鍬などに利用され、遠くは青森県の山内丸山遺跡でも発掘されています。また、現在当国有林より採掘されている黒曜石は建築資材・環境保全分野にも活用されています。

四 当国有林より流れ出る水は、下諏訪町(人口約二万四千人)の約八割が水



鹿柵設置作業の様子

道水として利用し、住民のライフラインの役割を果たしています。

以上ですが、最近の活動としては鹿害対策があります。平成二十一・二十二年度と八島ヶ原湿原の周囲約四キロに鹿柵を設置しました。

当署は資材の提供をはじめ、実行部隊のリーダーとして指導的役割を果たしました。二年間で延べ約六〇〇人のボランティア等が参加しました。また、事務所独自の鹿対策として、職員実行によるくくり罠による捕獲及び下諏訪猟友会に委託して鹿駆除を実施しています。今年度春期には隣接する県有林を含め、鹿九十五頭を捕獲しました。その他、日頃の業務としては、保育間伐活用型等、請負箇所の監督業務・境界巡検など実施しています。

私事ですが、国有林生活も残り一年余となりました。初心に返り、安全に配慮しつつ、緑の山づくりに汗流してゆきたいと考えています。



小金沢森林官（森林事務所前にて）

### 王滝営林署OB 〜王滝村に集う〜

【木曾署】平成二十四年十一月三日（土）、雪化粧した長野県木曾郡の御嶽山（標高二、〇六三メートル）の麓の王滝村に旧王滝営林署ゆかりの職員などが集まり、「王滝営林署OBの集い」が開催されました。

王滝村は、村の面積（約三万一千七百の八四％を国有林野（約二万六千餘）が占め、事業の最盛期には、台風被害木の処理もあって村内各地に製品事業所が置かれ、村の人口の半数程度は国有林野事



中央は雪化粧した木曾御嶽山、手前は王滝村の集落と愛知用水の牧尾ダム

業の職員が占めていたと言われる時期もありましたが、台風被害木処理が終了し、国有林の経営改善が進められる中で徐々に要員規模が縮小され、平成十年の抜本改革では木曾森林管理署王滝事務所が改組となり、平成十六年には国有林野事業関係の機関は四つの森林事務所と治山事業所を残すだけとなっています。

現在、王滝村の人口が九百名程度まで減少している中で、着任の挨拶に訪れた鈴木中部森林管理局長と瀬戸王滝村村長との間で「昔はよく村の娘が営林署の職員と一緒に村を出て行った」といったことが話題となり、旧王滝営林署の職員が村に集まって、これからの王滝村の繁栄を願ってはどうかとの発案で、王滝村出身の奥様を持つ相馬一之南木曾支署長を幹事長、副幹事長の宮澤氏にお骨おりいただき、趣旨に賛同される方を募ったところ、旧王滝営林署管内に勤務

していた長野県内の森林管理局・署の職員、退官後も木曾で暮らしている方々に加え、林野庁、北海道、兵庫県など県外で勤務している職員やOBの方も駆けつけ、地元王滝村役場からも瀬戸普村長はじめ職員の方々が参加されました。



瀬戸王滝村村長にも駆けつけていただきました



会場では、昭和50年代に制作された王滝森林鉄道などの映画を上映

瀬戸村村長からは、「会場となった村の旅館の大広間がこんなにいっぱいになったのは久しぶりだ」などと喜びの言葉をいただき、最後に参加者全員で「王滝村万歳」を三唱し散会となりました。散会后も昔から営林署職員がよく利用していた王滝食堂で参加者の一部と地元住民の皆さんが集まり、夜遅くまで名残を惜しんでいる姿が見られました。

今は森林鉄道も無く、国有林の事業量や職員も減少し、村の皆さんには国有林の姿が見え難くなっていますが、今回の催しは、国有林の職員の王滝村を思う気持ちや伝わり、国有林野を適切に管理していく上で重要な認識を地域と共有する機会となりました。木曾森林管理署に勤務する者として、霜が降りる寒い日に高齢にもかかわらず足を運んでいただいた方、遠方から駆けつけてくださった方などに感謝しています。



先輩と後輩が王滝時代の思い出を語り合う貴重な機会となりました



ミズバショウとリュウキンカ

### 咲き乱れるミズバショウ群

【飛騨署】 本年六月九日(土)に当署管内の飛騨市神岡町森茂地区において、「第四十一回岐阜県みどりの祭り」が開催されました。県は、この日に合わせ、県下で三番目となる魚つき保安林を指定しました。

ふう けい き こう  
**風景紀行**  
**池ヶ原湿原**  
 91  
 飛騨署  
 (各署の景勝地等を紹介)

春、四月下旬から五月上旬にかけて、約六畝の湿原に雪解けを待っていたかのように、三十万〜四十万株ものミズバショウが一齐に咲き始め、黄色の花をつけるリュウキンカと織りなす風景は壮観です。この他にもザゼンソウ、キクサギイチゲなどの名脇役達も湿原を彩ります。



歩道と湿原

指定された区域は、飛騨市が所有する宮川町地内の池ヶ原湿原周辺の森林(約十三畝)です。  
 当該湿原は、奥飛騨数河川流域県立公園内にある低層湿原で、標高一千以上の準平原(ニコイ高原)の中央部に位置し、岐阜県の天然記念物に指定されています。

夏は、湿原に吹き渡る風が爽やかで、秋には草紅葉やシラカバの紅葉で彩られます。

この湿原に隣接する向洞国有林は、湿原の背景林として池ヶ原風景林としてレクリエーションの森に指定されており、湿原への水の供給と景観の保全に大きく貢献しています。

#### ◆岐阜の宝ものに認定

池ヶ原湿原は、岐阜の宝もの認定プロジェクトにおいて、同じ飛騨市の天生湿



キクサギイチゲ



上記マップの出典：北飛騨の森をあるこうHPより(承諾済み)

#### ◆所在地

岐阜県飛騨市

#### ◆アクセス

#### 【自家用車】

◎JR高山本線打保駅近くの塩釜金清神社付近から林道(洞数河線)を車で約二〇分。  
 池ヶ原湿原へのアクセス道路の洞数河線の冬期閉鎖期間(十一月下旬〜翌年四月中旬)